

令和7年度武蔵野市すくすく泉事業有識者懇談会
議事録

日時：令和8年3月9日（月）

場所：武蔵野市役所 412 会議室

令和7年度武蔵野市すくすく泉事業有識者懇談会

○日 時 令和8年3月9日（月） 午後6時～午後7時20分

○場 所 武蔵野市役所 412 会議室

○出席委員 勝又委員長、箕輪委員、松田委員、鵜川委員、鳥居委員

○事務局 子ども家庭支援センター担当課長、子ども育成課長、健康課地域保健調整担当課長、子ども協会事務局事業課長

1 開会

【事務局】

皆さん、こんばんは。松田先生が今バスで向かわれているということで、最初は資料の説明ですので、始めさせていただきたいと思います。

まず、事務的なご説明をいたしますけれども、私は懇談会の事務局を務めます子ども子育て支援課子ども家庭支援センター担当課長の吉野と申します。よろしくお願いいたします。

初めに、本日の会議、皆さんのところに録音機を置かせていただいて、記録をとらせていただきますので、ご了承ください。

それでは、会議の前に配付資料の説明をさせていただきます。

《資料確認》

【事務局】

本懇談会は、すくすく泉の事業につきまして、円滑な事業運営、助言を求めるための場として位置づけておりますので、この懇談会の意見を踏まえた上で、この後行われます庁内の関係者で構成される事業採択・評価庁内委員会にて市として事業の評価を決定いたします。本懇談会の委員の皆様におかれましては、皆様の専門的な立場からのご意見を承れればと思っております。

委員長は、資料8、武蔵野市すくすく泉事業実施要綱第7条に基づきまして、子ども家庭部長を充てることとなっております。

それでは、これ以降の進行につきまして、勝又委員長にお願いいたします。委員長、よろしくお願

いたします。

【委員長】

それでは、団体の方がお待ちになっていますので、始めていきたいと思います。

1年に1回の会でもございますので、まず、委員の方から自己紹介をしていただければと思います。

私は、この委員会の委員長を務めます子ども家庭部長の勝又です。どうぞよろしくお願いいたします。

【委員】

皆様、こんばんは。武蔵野大学の箕輪と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

【委員】

遅くなってすみません。せたがや子育てネットの松田です。よろしくお願いいたします。

【委員】

こんばんは。主任児童委員の鳥居です。よろしくお願いいたします。

【委員】

皆さん、こんばんは。公認会計士の鶴川と申します。よろしくお願いいたします。

2 議事

- ・令和7年度すくすく泉事業実績（見込）について
- ・令和8年度すくすく泉事業計画（案）について

【委員長】

それでは、お手元にお配りしております次第に基づいて進めてまいります。

下に進行表を書いてございますので、この進行のとおり行きたいと思っております。

まず、議事「令和7年度すくすく泉事業実績（見込）について」と「令和8年度すくすく泉事業計画（案）について」を議題といたします。

事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】

それでは、審議の進め方につきましてご説明いたします。次第の進行表をご覧ください。

これから、事務局より、令和7年度補助金の執行状況及び令和8年度の収支計画についてご説明いたします。その後、いずみの会に入ってくださいまして、施設長ほか団体の皆様に自己紹介いただいた後、本題に入りたいと思います。

まず、団体から、資料2～4、令和7年度の事業実績の概要ですとか、資料5～6で令和8年度の事業計画の概要を説明いただきます。また、委員の皆様いただいた質問については、メールでお送りし

た資料7「委員事前質問一覧表」のとおりでございます。既に団体より回答をいただいておりますので、本日の説明は割愛いたします。

その後、委員の皆様から団体に対して質疑を行っていただきまして、この質疑、意見交換は7時10分ごろまでを予定しております。その後、団体は退室いただきます。

団体が退席した後、各委員からご意見をいただきまして、いただいた意見を踏まえて、懇談会終了後に開催される武蔵野市すくすく泉事業採択・評価庁内委員会で、市としての事業採択・評価を行います。

それでは、令和7年度の補助金の執行状況についてご説明いたします。まず、資料4をご覧ください。「令和7年度すくすく泉事業資金収支決算書（見込）」となっております。

令和7年度は当初予算に基づきまして、市より1,473万5,000円交付いたしました。市が交付した補助金に対する実績見込みは記載のとおりでございますが、補助金の対象であるひろば事業の分の収支差額25万3,748円を見込んでおります。差額が100万円を超えておりませんので、令和8年度にこの同額を繰り越して、市への返還は発生いたしません。

以降は補助金のものとは違いますが、一時預かり事業については収支差額8万1,451円を見込みまして、小規模保育事業については73万5,357円を見込んでおります。

資料6をご覧ください。「令和8年度すくすく泉事業資金収支予算書（案）」と記載されているものでございます。

令和8年度に市の交付する補助金は1,525万2,000円でございます。また、その他補助金等の内訳は説明欄に記載のとおりとなります。

ひろば事業の収入、支出は同額の1,538万4,000円を見込んでおります。一時預かり事業は収入、支出同額で1,807万7,360円を見込んでおります。小規模保育事業の全体の収入、支出は同額の4,960万8,360円を見込んでおります。

事務局からの説明は以上でございます。

【委員長】

収支決算につきましては、団体から細かな内容について説明があると思いますので、そこでご質問いただければと思っております。

それでは、いずれの会の方に入場していただいでください。

【事務局】

「進行表」の4段目のところ、「① 令和6年度すくすく泉事業（見込み）について」、「② 令和7年とすくすく泉事業計画（案）について」となっておりますが、1年ずつずらして、「① 令和7年度」、「② 令和8年度」でよろしく申し上げます。失礼いたしました。

<いずみの会入室>

【委員長】

令和7年度すくすく泉事業有識者懇談会にご出席いただきまして、ありがとうございます。これからご説明いただいて、ご質問をさせていただきますが、初めにいずみの会の皆様から、お一人ずつ簡単に自己紹介をお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

【いずみの会】

いずみの会責任者を務めております近藤和義と申します。とうとう10年目に入りましたが、いずみがこれからも皆様のご期待に応えられるようにしっかりと進んでまいりたいと思っています。私たちはNPOですので、職員の皆様をしっかりと見守りながら進めていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

【いずみの会】

同じくいずみの会の理事をしております種田と申します。よろしくお願いいたします。

【いずみの会】

去年度より保育施設長をさせていただいています大槻綾です。よろしくお願いいたします。

【いずみの会】

すくすく泉全体の施設長を務めております上田と申します。よろしくお願いいたします。

【委員長】

それでは、ご提出いただいております資料2から資料6までのご説明をお願いしたいと思います。その後、委員から質疑応答の時間がありますので、説明は簡潔にお願いいたします。

なお、資料7の事前質問一覧につきましては、既にご記入いただいたものを各委員に渡しておりますので、説明は不要でございます。

それでは、説明をお願いいたします。

【いずみの会】

まず、令和7年度の事業実績報告についてです。

「事業理念」、「事業内容」に大きな変更はありませんが、ひろばでは今年度は新しい常勤スタッフを置きまして、引き継ぎをしながら進めてまいりました。一時預かりでは初めて常勤スタッフ1名を置きました。通常の預かりと「多様な他者との出会いの機会の創出事業」、すくすく泉ではこれを「はーとぷらん」と名づけておりますが、それを一緒に進めることにスタッフ同士の連携も慣れてきて、大きな事故なく進めてこられました。

【いずみの会】

保育です。

今年も 11 名の 0～2 歳児の保育をしました。隣接する公園で遊ぶ子もいれば、お部屋でじっくりと遊ぶなど、一人ひとりの様子を見ながら保育をしてきました。

【いずみの会】

では、「事業効果・波及効果」についてです。

子育てひろば事業です。

ひろば利用の入り口としてあるプログラムに「はじめてのひろば」というのがあるのですが、すくすく泉と市内にあるたくさんのひろばについて、そこでどんなことができるのかなどをお話するものです。これに参加して、安心してひろばに遊びに来れたという声も多くあるので、大事なプログラムだと思って継続しています。

それから、父親の育児参加を促す「Tomony」を土曜日に開催しておりますが、今年度もさまざまな出会いの場となったと思います。内容は資料にあるとおりでですが、1つピックアップするとしたら、初めて企画した「お砂場デビュー」です。乳幼児の場合、どのタイミングで砂場遊びをさせたらいいのかという質問を受けることがよくあります。今回は子どもの発達における砂場遊びのメリットをお話するとともに、子どもにやらせる前に大人が楽しく遊んでみようという内容で行ったところ、最初汚れるのが嫌でさわれなかった子とか興味がなさそうな子たちが1時間後にはどンドン遊び始めているという姿が見られて、保護者の感動や学びを生んだと思います。

また、だっこおんぶの講座なんですけれども、だっこの正しい位置がわからなかったり、おんぶはちょっと怖いからやったことがないけど実はできたらいいなと思っているというような声も多かったので、保育室から大槻が講師となって来てくれて、実際にやってみるという実践的な講座を行いました。おんぶひもやだっこひもがあくまで補助具であって、子ども自身がつかまったり、ママの動きに合わせての体重移動をしたりという発達効果みたいなものも伝える機会になってよかったと思います。最近、お荷物のように袋に入れて子どもを運ぶみたいなだっこひものタイプが多いのですが、昔ながらのおんぶひももやってもらったりして、密着おんぶの理屈とかを体感してもらえて、とてもいい講座になりました。月曜日の講座としてやったのですが、すごく好評だったので、今月また土曜日の「Tomony」の枠でお父さんたちも一緒にやることになりました。

そのほかいろいろと実行したのですけれども、資料にあるとおりです。

次に、一時預かりについてです。

令和7年度に作成しました英語版の「利用のしおり」については、利用されたほとんどの方が実は日本語を結構できる方だったので、正直、出番はあまりありませんでしたが、その中でも、英語版がある

ことによって、よりわかりやすくよかったという声もいただきました。

令和7年度はキャンセル待ちをされる方が多いほど、すごく利用が多かったです。定期利用の「はーとぷらん」などは毎回予約開始日に予約枠が全部埋まってしまうほどの人気がありました。スタッフは事前の面談や子どもの個人ファイル、情報共有ノートなどを活用して、誰が担当になっても安心、安全な預かりができるように進めてきました。

【いずみの会】

保育です。

今年度も7月までは11名そろうことが難しい状況でしたが、途中、保育園見学者の様子や月の入所状況を見ながら年齢募集を考えていったところでそろうことができ、よかったです。

また、4月から新しく常勤職員が1名入り、毎日同じ職員がいる体制がとれたことで、保育の安定にもつながることができました。常勤職員を中心に、非常勤職員も日々の保育に入るので、毎日の10分ほどの振り返りミーティングは欠かせないものになっています。

また、今年は「食育について」をテーマに園内研修をしました。すくすく泉の給食は10年たち、今までの給食を基本にしながら、現在の子どもたちにとって大切なことは何か、保育と給食と一緒に学んでいきました。子どもたちの様子を見て、今年はそしゃくの大切さを中心に、個々に合わせて形や食具を考え直す機会も増やしました。子どもたちと給食の職員の会話のやりとりも意識的に増やしてみると、子どもたちがお世話をしているカタツムリの餌に、給食から野菜の皮や端をもらう姿も見られました。カタツムリにあげた野菜が給食に出ると気づき、食への興味につながりました。今後も互いに意見を出し合い、すくすく泉の給食スタイルを築いていきたいと思います。

もう一点、報告にもあるように、東京都福祉局の「魅力ある保育」に応募し、選ばれました。4月に入職した職員が毎日の振り返りでほかの職員とともに一人ひとりを見ることの難しさを実感しながら、保育士の仕事に誇りを持ち、ぜひ次世代にもつなげたいという思いを込めて文書を書き、応募しました。在園児の保護者に同意書をいただき、年末に取材、1月に動画の撮影を行いました。現在、取材側と原稿の確認のやりとりをしています。それが終了次第、ホームページに掲載される予定です。

続きまして、「達成目標に対する評価・反省」です。

「3事業の連携で質を高める」については、報告に書いてある以外にも、ひろば、一時預かりと連携して今年は防犯訓練を2回行いました。また、消防士さんと呼んで、救急救命措置の合同園内研修を行い、1つの施設として防犯の意識を高めたり、協力していくことを再確認していきました。

【いずみの会】

子育てひろばです。

昨年度の目標として掲げていました中学生と子育て中の利用者さんたちがかわる機会として、武蔵野市立第一中学校の「一中フェスタ」参加ができませんでした。一昨日の土曜日に実施してきては、今と未来のためのママ・パパ体験として、参加者は中学生の男女8名で、前半に妊婦体験やベビーカー体験などをしてもらって、子育て中のママやパパへの質問を出し合うみたいなワークショップをしました。後半に、うちの利用者さん親子5組に協力してもらって、実際に中学生の質問に答えてもらったり、赤ちゃんたちと一緒に遊んだり、だっこさせてもらったり、コミュニケーションをとっていました。

最後に、中学生たちからは、教科書で習った以上に大変だということがわかって、乗り物で席を譲るなど自分にできることはやりたいと思ったとか、自分の親が頑張ってくれたんだな、そんな感想がありました。協力してくれたパパやママたちからも、大変なこと以上に喜びが大きくて、これはほかにかえがたい経験であるというお話とか、毎日毎日幸せを感じているんだというような話をしてもらって、とてもいい時間になりました。可能であれば毎年参加できればと思っています。

それから、毎週行っているんですけども、「すくすくトーク」という時間は子どもの発達不安を中心に日々の悩み事などをみんなで話してみようという座談会なんですけれども、保育士さんに入ってもらって進めてきました。

ただ、反省というわけじゃないんですけども、その中で最近、人に相談をしない方というか、心を開いて困り事を相談するというのがハードルが高いような方が多いと感じていまして、資料にも少し書かせていただきましたが、そもそも困り事に気づいていなかったり、それよりも自分で調べられることを人に聞いてはいけないみたいな傾向があって、人よりもまずSNSとかAIで確認してからみたいなこともあるのかなと感じています。現在、この相談へのハードルについては、実際、お母さんたちやお父さんたちがどう考えているのか、何を頼っているのかみたいな、利用者アンケートを実施しているところです。今日には間に合っておりませんが、今そのアンケートを集めております。

次に、一時預かりです。

今年度、一時預かりにも初めて常勤を置きましたけれども、定期利用や担当交代時の引き継ぎなどがスムーズになったことで安心感があって、ばらばらになりがちだった保護者対応なども継続性が生まれてきたと思います。

その他、1名が保育士資格を新たに取得したこと、有資格者を1名採用ということで、シフトも安定してきています。

【いずみの会】

保育です。

今年も年間を通していつでも園見学受付をしてきたことで見学者が多く来られました。これは事業間の連携の話にもなるのですが、ひろばに遊びに来て、ちょっと保育園に興味があるという話があると、ひろばスタッフが声をかけてくれて、そのまま案内ができたり、また、園見学の帰りに初めてひろばで遊ぶという場面もありました。

今年度も「保育士体験」をしました。保育士体験を通してきちんと子どもの話を聞こうと思いましたという保護者からの感想もあり、私たちもまたその後、保護者とのコミュニケーションが多くなってきました。

常勤4名を中心に、非常勤職員とともに安定した保育を行うことができました。来年度も人事は大きく変わらないので、さらに常勤職員一人ひとりが積極的に声をかけ合って、非常勤職員とともに悩み、1人で抱え込まない体制づくりをしていきたいと思います。

次に、地域とのつながりについてです。

【いずみの会】

令和7年度は、コロナ以降、飲食をやめていた昔遊びカフェを復活させました。「昔遊びの会」は毎年やっていたのですが、昔遊びカフェということで、これはNPOの活動となりますけれども、地域の方が来て手づくりお菓子とかコーヒーとかを出してくれて、世代を超えてお手玉、かるた、こま回し、けん玉などで楽しい時間となりました。小学生もたくさん来てくれました。

その他は、継続している読み聞かせの会、地域のお祭りなどのイベントへの参加などを積極的に行ってきました。

詳しくは資料のとおりです。

続いて、「令和8年度以降の見通し」です。

子育てひろばです。

毎年行っていることですが、プログラムの見直しを行って、先ほどお話ししたアンケートなどからも読み解いて進めていこうと思っています。既に具体的に進んでいるのは、ボランティアさんたちによる、泉文庫を活用しようという趣旨の読み聞かせの会が、いつの間にかハンドベルをやり始めたり、お歌を歌い始めたり、ボランティアさんもやりたいことがあって、「読み聞かせなのか？」みたいな時間になっていた実情があり、メンバーの方たちと一回お話をしました。もちろん、気持ちよくボランティアさんもやりたいことをやっていただきたいので、ここは多世代交流の会というふうに一新することにしました。泉文庫の活用は、そこでも少し読み聞かせをやってくれますし、ほかでまた考えようと思います。

また、先ほどもお話ししましたが、相談に対するニーズが減っている現象について、「すくすくトー

ク」での感触とともに、毎月助産師さんが来て計測と相談をしてくれているところの予約が今、埋まらないんですね。最初、始めたころは希望者がいっぱいいて、相談の時間が短くなってという話だったのが、今はその相談時間を倍にしたのですが、埋まらないというような状態です。始めた当初の3分の1ぐらいの希望者かなという感じなので、ここもちょっと考えていきたいと思っています。

赤ちゃんのそもそものベースのところをあまり知らないんだなと感じることもあります。スマホなど、手元ですぐに得られる膨大な情報とか、〇〇を知らないなんておかしいと言われてたり、〇〇しなければ手遅れになるとか、今こんな育児方法やグッズがトレンドだ、みたいな、焦らすような内容がすごく多くて、ちょっと振り回されているように感じる場合があります。実際に「保育士さんに相談したらこういうふうに言われたんですけどどう思いますか」とSNSに上げて聞くみたいな、そんな事例もあつたり。このようにあふれる情報に対して私たちは相談相手として不要になっているのではなくて、逆に私たちはリアルにその子どもを真ん中にする相談相手としてさらに重要な役割があるのではないかと考えています。令和8年度はこれをもとにひろば運営を考えていきたいと思っています。

一時預かりです。

一時預かりは、定期利用の「はとぷらん」は今度「はとぷらんN」になりました。ニューとかネオとかのNなのですが、主な場所を保育室に変えます。保育と連携をとりながら進めていきたいと思っています。そして、今後も子ども主体で、安全で快適な時間を過ごせるように研修やミーティングを続けていきたいと思っています。

保護者も安心して預けられるよう信頼関係を結ぶように、対話と個人情報の扱いを大事にしていきたいと思っています。

【いずみの会】

保育です。

今年1年を通して乳児の食育の園内研修をしてきました。職員全員で乳児の育ちを学び直し、また、ほかの園の食事やスタイルなどの話を聞いたりすることができたことはとてもいい学びになりました。そこから保育、給食室がお互いの意見を出し合ういい環境をつくることもできました。令和8年度もこの土台を壊すことなく引き続き保育士と給食職員がさらに意見交換をしながら、「いずみのおうち」の給食を築き、その年の子どもたちにとっての食のスタイルをつくっていきけるようにしていきたいと思っています。

4月より「こども誰でも通園制度」がスタートします。保育室で11人プラス1人、12人の子どもを保育する時間ができ、より一層常勤、非常勤、一時預かりの職員との協力体制が大切になってきます。在園児の保護者にも、年度末の保護者会で説明します。より一層子どもたちが安心して保育園で過ごせる

ように努力していきたいと思えます。

そのほかは資料のとおりです。

次に、事業資金、収支決算についてです。

【いずみの会】

それでは、令和7年度収支決算の報告をいたします。お手元に資料が3枚ありますが、時間がかかりますので、その総括表である「活動計算書（見込）の費用細目」を使って数字の報告をいたします。

まず、事業収益ですが、過去との大きな違いは、一時預かりがひろば事業の一括でしたので、ひろば事業補助金の中で運営したのですが、新しい補助金を得まして、独立した3つの事業に分かれております。

経常収益8,131万7,202円になります。

続きまして、経常経費は8,190万9,508円。

令和7年度は、予算策定上、数字が少なかったものですから、過年度損益、修正益、今までの剰余金から170万おろしまして、それを加えた結果、経常収支として110万7,694円を見込んでおります。

以上です。

【いずみの会】

続きまして、令和8年度の事業計画です。

「運営理念」は変わりません。

「令和8年度に力を入れて取り組みたいこと」についてです。

まず、子育てひろばです。

先ほど事業報告の中でもお話ししましたが、あふれる情報に振り回されて焦る子育てに問題を感じていますので、令和8年度のテーマを「焦らず育ち合うひろば」として、単なる無料の遊び場ではなく、人の中で安心できる子育てをする。その役割をすくすく泉が担って、地域の子育ての中心として存在したいと考えています。特に、子どもの心身の発達に寄り添った情報を得られる場、多世代とかかわることができて地域とつながっていける場をつくっていき、人が人の中で育つ、人に支えられて育てる、人の役に立てるなどを大切にしていきたいと思っています。

一時預かりです。

一時預かりは何度も出てくるので簡単にしますが、「こども誰でも通園制度」と「多様な他者との出会いの機会の創出事業」を活用した「はーとぷらんN」を常勤が中心になって保育と連携しうまく運営していくこと、また、引き続き研修などを重ねて安全な環境で子どもが快適に過ごせ、保護者からは安心して預けていただけるような信頼感を大切にしていきたいと思えます。

次に、保育です。

【いずみの会】

まず第一に、令和7年度に引き続き、令和8年度も保育士と給食が連携して、乳児の食育を深めていき、「いずみのおうち」の給食理念を確立していきたいと思っています。

もう一つは、家庭との連携において、今年度も気持ちや困っていることに寄り添いながら情報共有していき、一緒に成長を喜び、育てるような関係づくりをしていきたいと思っています。

保護者同士のつながりも大切にし、保護者会以外にも親子懇親会などの機会をつくっていききたいと思います。

【いずみの会】

「中長期目標」です。

中期目標については、12年目となって、かなり具体的に着手できていると感じています。当初目指していた、子育てするときに行く地域に当たり前に存在する場所になりつつあると思っています。実際に利用者さんからも、ここがなかったころはどうやって子育てをしていたのか想像できないと言われてたり、祖父母の世代からの情報で利用してくれたり、初期のころの赤ちゃんたち、利用者さんたちがもう中学生となっていたりするので、すくすく泉を知ってくれているというのもすごくうれしく思います。長期目標を考えると、それらのさらなる充実と、時代に合わせてブラッシュアップしていくことも大切だと思っています。また、地域のいろいろな機関とつながって、連携しているというのが当たり前となっていくことを願って進めていきたいと思っています。

次に、「事業内容」です。

子育てひろばです。

日常のひろばについては、かつての離乳食講座などでちょっと追い詰められて悩んでしまうというような例をもとに、食について負担を感じないようにとか、例えば「簡単でもいいよ」とか「忙しければタイパ（タイム・パフォーマンス）重視でもいいよ」など、それぞれのスタイルでいいよと、多様性を認めるじゃないですけど、そんなような方向に支援をしがちでした。最近、そうは言っても、そもそものベースをあまり知らないのではないかと感じることも多く、どういうやり方であればこれをプレッシャーなく伝えられるのかと考えた中で思い出したのが、コロナ前にひろばの利用者さんも、一時預かりも、たまにはスタッフも、一緒にひろばの真ん中にテーブルを出してお昼ごはんを食べていたこと。それから、保育室の給食さんにちょっと多めにつくってもらって、限定2食とかで買って保育園で食事を食べれる機会が、本当に初期のころですけれども、そういうこともやっていた。このような機会はすごく大切だったのではないかな。これを現代のスタイルにブラッシュアップして復活させたいと思っています。

す。

食以外にも、赤ちゃんの発達についてとか、赤ちゃんの扱いについて、日常のひろばの中で自然に知ってもらえるようスタッフが動くようにします。もちろん、そのためにも我流にならないようにスタッフは研修やミーティングでの振り返りなどを重ねていきます。日常の中に自然に情報が詰まっている、そんなひろばになるといいなと思っています。

プログラムは資料でお出ししたとおりで、内容を更新しながら、多方面から企画を考えて、妊婦さん向けから小学生ぐらいでも楽しめる内容とか、地域の人の方を生かしたり、地域の人と一緒に楽しめるものを織り交ぜてあります。

泉文庫子育て相談についてはお読みいただいたとおりですが、利用者の活動について少し補足します。

冬に始めた、編み物ができる時間に今少しづつ人が集まっておりまして、2月末で終わる予定だったのですが、まだ続けたいという声がありました。できない人もそこに参加して、できる人が教えてあげるみたいなことで赤ちゃんの帽子を編んだりしております。来年度も毎週木曜日の午前中は編み物の時間にしようと思って、編み物をしながらおしゃべりをする時間をつくります。その日にちょうどそのままみんなでご飯を食べる時間を増やしていこうと考えています。

公園の活用も今までどおりなんですけれども、令和8年度はお隣の井之頭小学校の解体工事が始まります。私は住民説明会にも出てきたのですが、特に9月から12月ごろの振動、騒音、粉塵などの影響が大きいだろうということで、それが一体どのくらいになるのか、外で遊べるのか、部屋の中でお昼寝ができるのか。そういうところを今心配しています。

コミセンでの「親子ひろば」については、令和6年度、7年度、周知に力を入れてきたことで参加人数は今、増えております。ただ、こちらも終わった後にみんなでランチができるよとなっているのですが、それは復活していないです。これも考えていかなくてはと思っています。

次に、一時預かりです。

一時預かりでは、利用者数が今年はずごく多かったです。予約がとりづらい日も多くて、キャンセル待ちも増えました。令和8年度は「はーとぷらん」が保育室に移動する関係で、実質、枠が1名あくこととなります。ほんの少しですが解消されるかなと思っています。

【いずみの会】

保育です。

同じ常勤職員が2年から5年目に入るので、引き続き安定した保育体制の中で、非常勤職員はもちろん、ひろば、一時預かりスタッフとも声をかけ合い、すすすく泉全体のよいチームワークで子どもたちを見守り、保護者の信頼を得る保育をしていきたいと思っております。

また、「はーとぷらんN」で月曜から金曜まで各1人、在園児との合同保育としてともに過ごす環境づくりや職員、子ども同士の関係づくりなど、注意深く観察していき、連携して対応していきたいと思っています。

3事業の相互のかかわり方や、その他についてです。

令和8年度一番大きなことは、やはり「はーとぷらんN」です。保育の非常勤職員も一時預かりを兼務する予定です。さらに行き来が多くなるため、スムーズな連携が必要になると予想しています。

また、ひろばの利用者さんのための講座を保育の職員や給食職員が行います。具体的には「おんぶ講座」、「すくすくトーク」、「保育園の給食を食べてみよう」、「だし講座」などです。垣根なく行きたいと思っています。

次は、「地域参加・参画方法」です。

【いずみの会】

令和8年度も地域の方たちのお力をお貸しいただく場面をつくっていくこと、また、それにはまずすくすく泉を知って、かかわっていただく機会を増やしていきたいと思っています。私たちの基礎は、旧泉幼稚園の跡地を子どもたちのために活用してほしいという周辺の方々の思いですので、大変ありがたい成り立ちだと思っています。その思いを忘れず、一緒に楽しむ機会を設けたり、こちらから地域の活動のお手伝いに出向いたりしていきます。

また、「一中フェスタ」みたいな赤ちゃんボランティアや「昔遊びの会」、小中高生のボランティアの受け入れなど、利用者さんと地域の方の出会いの場を大事にしていきたいと思っています。

「施設内容・内部体制」についての詳細はお手元の資料のとおりです。

次に、予算についてです。

【いずみの会】

令和8年度予算をご説明申し上げます。収支予算書、関連書類は4種類に別れておりますが、説明につきましては先ほど同様、「令和8年度活動計算書（予算）の費用細目」を用いて報告させていただきます。

経常収益8,321万2,310円、経常経費8,321万2,310円、経常収支は0となっております。見込みとほぼ変わらないのですが、経費の充実を図った予算を組んでみました。

以上でございます。

【委員長】

それでは、ただいま団体さんからご説明のありました令和7年度の実績、収支報告及び令和8年度の計画及び予算につきまして、委員からこれから質問させていただきます。質問のある委員の方は、挙手

いただければマイクをお回しいたします。いかがでしょうか。

では、皆さん検討中の間に、私から1つご質問させていただきます。

団体さんのほうから、「誰でも通園制度」及び東京都の事業「多様な他者」で、今年度は「多様な他者」をやられて、来年度からは保育のほうでやるというお話が今あったと思います。ご存じのように「誰でも通園制度」は月 10 時間という上限がございます。恐らくそれをまず登録されてお使いになるだろうと。その方が、その後「多様な他者」なのか、一時保育なのかがあると思うのですけれども、一時保育は別の部屋でやるのですよね。この中を読ませていただくと、専用の部屋で保育士がしっかり寄り添ってやるという趣旨だと思うのですけれども、その方が上限を超えた後の利用の仕方はどう想定されているのか、お伺いしてもいいでしょうか。

【いずみの会】

「誰でも通園制度」10時間ですけれども、うちの場合は定期利用だけを受けるようにしようと思って、それで準備をしています。週に1回、例えば月曜日の子、火曜日の子、水曜日の子みたいに、それぞれ月から金まで1人ずつ、1日4時間、9時から13時まで、3カ月間という形の定期利用だけを受けます。例えば1カ月10時間、誰でも通園制度を使って使い切った後は「多様な他者」に移る形になりますので、一時預かりとはちょっと切り離して考えています。一時預かりはあくまでも一時預かりで、それとは別に予約が入れば受けますという形になります。

【委員長】

要は、定期預かりは「誰でも通園制度」と「多様な他者」の組み合わせで行っていくという趣旨でいいのですね。わかりました。

ほかの委員の方は、ございますか。

【委員】

細かい点で、2点確認です。先ほどの収支の令和7年度の見込みで過年度の修正益を170万計上されていますが、これは繰越金を使うという意味ですか。

【いずみの会】

剰余金の取り崩しです。

【委員】

剰余金の取り崩しですね。それは収支には上げる必要はないと思います。基本的に期末の剰余金がありますよね。ここでこれを使うということですね。

【いずみの会】

そうです。

【委員】

例えば収支が 100 万円のマイナスになったら、正味財産の剰余金がありますね。ここから 100 万円減るという形でいいのではないかと思います。

もう一点、教えていただきたいのは、退職金積立額の積み立ての繰入額はここに出ていますでしょうか。

【いずみの会】

これは当期残った剰余金、その中から引き算する形にしています。ですから、退職金積立金と今期の剰余金を合わせると全体の繰越金になるという勘定でございます。

【委員】

なるほど。積立金は、令和 8 年度の予算でも 100 万ぐらい増えていらっしゃいますね。

【いずみの会】

年間 100 万ぐらいの予算に。

【委員】

100 万ぐらい積み立てていらっしゃる。これは収支計算書の中に計上したほうがいいと思います。一般的には収支に計上する形が多いです。NPOの会計基準もありますが、収支計算は、現金ベースで、支出の中に退職金積み立てを入れていただくほうがいいと思います。

【いずみの会】

支出のほうにですか。

【委員】

はい。

【いずみの会】

これは実は相談をしまして、資本の中の数字と見たほうがいだろうというアドバイスを受けまして、資本ということですので、貸借対照表の資本。ですから、剰余金の同じ項目、それを置いたんです。じゃ、それよりも支出のほうがよろしいのですか。

【委員】

そうですね。支出に入れていただいて、そこで積立金にしておいていただいたほうが、お金の流れがわかりやすくなります。ご検討いただければと思います。よろしく願いいたします。

【委員】

ご説明ありがとうございました。いろいろなことを保護者の方、お子さんのために考えてしてくださっているというところがよく理解できました。逆に、こんなにたくさんをいろいろ取り組まれて

いて、先生方は大変だったりしないのかなというところで、これから「誰でも通園制度」が始まって、制度的なところでも結構ぐちゃぐちゃしてくる部分もあります。さらに、利用してくれるお子さんが増えると、先生方の体制でご不安や負担というところで現時点で考えられていることや、そこをどうクリアしていこうと思われているかを1点目として伺いしてもよろしいでしょうか。

【いずみの会】

「ハートプランN」が始まるのは、どうなってしまうんだろうとかなり不安も……。いろんなことの決まってくるのが押せ押せで、すごくぎりぎりだったものですから、でも、やってみなきゃわからないよねというのが正直なところですよ。

そのほかのことに関しては、きょうもスタッフミーティングがありましたが、こういうことを今日話してくるよという話もスタッフに伝えてありますし、根っこの部分というか幹の部分はみんな、うちはスタッフが割と熱いんですよ。(笑)なので、そこは心配していません。

あと、常勤が増えたことで、中心の私たちも、気持ち的には以前よりも少し楽になってきて、いいなということと、非常勤さんがとにかくたくさんいます。非常勤さんはなるべく気持ちよく、ご自分の生活に負担ない程度に働いてもらっています。楽しくて毎日のように入りたいわという非常勤さんもいれば、1週間に1回ぐらいちょこっとだけという方もいます。いつもニコニコ子どもに対応できるメンタルでいてほしいということで、ちょっと用事があるので休みたいと言われたら、「はい、どうぞ」という感じにできるような体制をつくっています。なので、一時預かりの仕事に対してはスタッフ人数を多めにしておいて進めております。

【委員】

2点目が、去年も出た気がするのですが、研修費を12万くらいとられているかと思うのです。外部研修、内部研修、質のところでは先生方もかなり努力されているかと思うのですけれども、この研修費で外部の研修も内部の研修も、先生方が受けたいものは十分にできるかを教えていただけますでしょうか。

【いずみの会】

保育のほうは市から全体研修が年に3～4回、地域の研修も2回ありまして、そこは常勤の誰かが出るようにして、その後お互いに情報共有をしています。園内研修は毎年1回テーマをつくって、去年度は保護者との関係、コミュニケーションの取り方をやっていたのですが、今年は食育。10年目にして子どもの食べ方とかスタイルがすごく変わってきて、もちろんすすくすく泉のもともとのベースを大事にしながらも、私たち職員も大分かわってきたので、ほかの園で働いていた職員とかと情報を共有しながら、今年ちょうど育成課の方から、南保育園の栄養士さんを招いて市の保育園のスタイル、どういうふうに食べているのかとか乳児の育ちをもう一度見直そうということで、理事である汐見先生から話を聞いて

て、園内全体の職員で研修させていただきました。あとは個別で自分たちがこういう勉強をしたいという事は外部からの研修を受けたりしています。

【いずみの会】

ありがたいことに、お金のかからない研修がとても多くて、予算的にはあまり使っていないように見えるかもしれないんですけども、受けています。外部の有料の研修は、外部の有料の研修、受けたいという声があれば、そこは補助が出たりという仕組みもつくっております。そういうところで受けてきたスタッフが、これはよかったということをミーティングとかでシェアする時間もあるので、行けないとか、生活であまり出られない方たちはミーティングでシェアしてもらってという形で進めています。

【委員】

ありがとうございました。安心しました。

【委員長】

そのほかの委員の方でご質問のある方、いかがでしょうか。

【委員】

いつも丁寧な活動をありがとうございます。利用者さんの様子をお伺いしたいと思っておりますが、ちょっと心配なご家庭とか、相談機関になっているのでしたっけ。地域子育て相談にはなっていないのかな。

【いずみの会】

なっていないです。

【委員】

これだけの活動と利用者がいるので、要対協や保健師さんとの連携の部分がどんな感じか。もしそこから辺の希望があれば。こんなふうになっていって連携できるといいなとか、個人情報やりとりは結構苦慮されているのではないかなと思うので、その辺をお伺いしたいと思います。

【いずみの会】

要対協については、保育園があるので、保育のほうは入っていて、ひろばのほうは入っていないという状況です。何かあった場合は、保健師さんが月に1回、ひろばのほうに入ってきてくれるので、そこで直接相談をすることもありますが、もし何かあった場合は子ども家庭支援センターに直接お電話でやりとりをさせていただいている状況です。

ただ、相談されることが減っている気がしていて、私たちは「相談して」という感じの姿勢でいるのですけれども、それはどうしてなのかなというのがなかなか難しいと思っています。

地域とか地区とかさまざまなところを相談員さんが回ってくれたらうれしいなと思っています。仕組

みとしては、日々の顔の見える関係で、私たちの相談にも乗ってもらえたらいいし、ひろばの中の親子とも直接顔を合わせてというような活動をしていただけたらありがたいと思っております。

【委員】

そういう連携の部分について話し合いの場とか、こうなっていこうみたいな場は、ここ以外に何かあるのですか。ここで年1回とかで要望みたいにしていても仕組みは動かないと思うんですけど。

【いずみの会】

これはどうしたらいいんでしょう。仕組みについては何度もお願いしています。あとは、月に1回の各ひろばの Zoom の集まりで、各ひろばがどのようなことをやっているという情報交換の場はつくっていただいています。何せ個人情報とか相談事に関してはそこで話すわけにはいかずという状況なので、そういうことをどこかで話せたらいいなと。要対協は、入っていたらいいと思うことはたまにあります。

【委員】

その辺は市の方の何かなのかな。0123と児童館とそれ以外みたいになっちゃっているのかなというのが気になっているところです。

逆に、研修費にひっかけて、スーパーバイズみたいな形で来ていただくみたいなものもできるかと思うのです。スーパーバイズは、保育の中身というよりは、個人情報とか心配なご家庭へのものには何かいい案を持っていらっしゃるのでしょうか。

【いずみの会】

スーパーバイズは保育のほうに来ていただいています。ひろばのほうにはどなたが来ていただけるのでしょうか。

【委員】

自分たちでお金を出してお呼びするとか。

【いずみの会】

外部からということですか。

【委員】

要は、メンタル的にしんどいご家庭とつき合っているときのスタッフのケアとか、そういうのも聞いてもらう。外に研修に行くのもいいのですが、いずみの中身を知ってくれている、つき合ってくれる人をつくっておくみたいなのはありかなと思います。そういうのにお金を使っていいんだと思うんです。研修費になるのかはちょっとわかりませんが。

【いずみの会】

ありがとうございます。考えてみます。

【委員長】

そのほか、いかがですか。

【委員】

質問ではなくて申しわけないのですが、先生方が楽しそうに働いているのがとてもいいなと思いました。

それと、「一中フェスタ」。私は参加しなかったのですが、前任の阿部が行っていると思います。

相談事が少ないということの、自分で調べられるからそういうことを相談していいのかと思っている保護者がというのがちょっとひっかかっています。私は高齢者のほうも行くんですが、お困り事相談の高齢者も少なくなってきたんですね。だから、自分で調べられることを他人に聞くということが今、本当に難しいというか、しなくなっちゃっているのかな。心を開いてあげたいじゃないけど、ちょっとおせっかいしたいなど、お話を聞いていて思いました。

【いずみの会】

本当にスマホが原因なのか。まだ想像の域なんですけれども、これは何とかしたいと思っています。スタッフみんなで、どうしてこんなに心を開いてくれないのか、場をつくって座談会でみんなで話しましょうとしても、誰かが保育士さんに何かを聞き答えを得る、それで終わり。みたいなことが多くて、深まらない。何かおかしいねという話はしています。

【委員長】

ほかの委員の方はございますか。

先ほど内容のところを聞いたので、収支のことで1点。恐らく小規模保育事業の補助金収入のところには、「こども誰でも通園制度」と「多様な他者」が両方入っているのだと思います。

【いずみの会】

一時預かりのほうですね。

【委員長】

一時預かりに入っていると思います。「誰でも通園制度」は公定価格でいって恐らく1時間300円という金額でやるので、かなり厳しい制度設計。こちらが認定をして言うのもあれなんですけど、収入的にはかなり厳しい制度設計になっていると思います。そのかわりと言ってはなんですけど、東京都の「多様な他者との出会い」の事業は、一定程度年間で、かなりお金が出ますので、そのあたりで事業設計されているという認識でいいのかな。その会計はこのたび1,000万ぐらい入っていると思いますが、大部分が東京都の制度ではないかと想像しているのです。

【いずみの会】

そのとおりです。

【委員長】

内訳を書いていないので、わからないのですが、そのあたりの会計の中身を教えてほしいのですが。

【いずみの会】

初め、「多様な他者」の話が出たときに一番苦勞しました。結局、常勤1人当たりに対する総コストが一番大きいのです。ですから、管理の費用も全部1人当たりの総人件費に入っています。それが例えば2人やれば2人の総人件費が費用として入ってくるという物の考えで計算しました。それに対して子ども1人受ける……。

【いずみの会】

内訳も。

【いずみの会】

今、「多様な他者」、一般の方の一時預かりが470万ほど。

【いずみの会】

それは一般型です。

【いずみの会】

残りの700万強が「多様な他者」、見込みのほうです。予算をつくるときに、数字が確定されなかったもので、700万を暫定数値として入れ込んであります。これで数字が確定したら、その収入は変動する。ということは、見直し数字になってきますので、そんな感じです。

【いずみの会】

「誰でも通園制度」の金額が全然出てこなかったんです。多分今回の予算書には入っていないと思います。去年までの「多様な他者」でとっていた金額、このぐらいの金額がないとやっていけないということで予算を組んでいるところで、公定価格のそちらのほうがなかなか答えをいただけなかったので、間に合っていないです。

【いずみの会】

これは2月6日の時点です。

【委員長】

東京都の「多様な他者」は結構出るので、公定価格を入れると、もう少し行くのではないかと。私の頭の中では、この事業の収入は、ここに書いてあるよりももう少し行くのではないかと。ただ、利用実績に対する公定価格ですから、当然利用がないとお金が入らない。計画上はどのくらい見込んであるかはあると思いますけれども、全部入れば、当然1人当たり300円プラス公定価格分が1時間の単価で入っ

て、掛ける1人10時間が入りますから、その計算が難しいと思うので、どう試算されているのかわからなかった。公定価格を明確にお伝えできていなかったのも、それが反映されていないという理解でいいですね。

【いずみの会】

反映されていないので、それも含んだ状態で大体このぐらいで行けるかなというものです。

【いずみの会】

それに一応見込みがありましたので、見込みがベースになっております。

【いずみの会】

そうです。でも、「誰でも通園」のほうは見込みが年間100万から200万。なので、それだけだとちょっとやっていけないという感じはあります。

【委員長】

今、公定価格でゼロ歳だと、1人1時間使って利用料を入れても2,000円ぐらいだと想定されるので、そこをベースに、そのぐらいで算定されていると思います。あとは利用実績に応じてになります。東京都はドンと出るんですが、「多様な他者」は実績ベースでしか出ないので、来年度始まってから、運営でどのぐらい出るかという実績を見ながらやっていくのかなと思います。

【いずみの会】

でも、既に問い合わせなり申し込みなりが多いので、枠は全部埋まるのではないかと想像しています。

【委員長】

ほかによろしいでしょうか。

それでは、そろそろお時間になりますので、質疑応答についてはここで締めさせていただきます。いずみの会の方、わざわざお越しいただき、ご説明いただきまして、ありがとうございます。

じゃ、いずみの会の方はここで退席という形になります。どうもありがとうございます。

【いずみの会】

どうもありがとうございました。

<いずみの会退室>

【委員長】

それでは、ただいまいずみの会からの説明、また、委員との質疑応答を踏まえまして、補助事業が適切に実施されているか否か、来年度事業計画は妥当か否かという観点から、それぞれ委員の方からご意見をいただきたいと思っております。各委員から一言、二言、感じられたことを含めましてご意見をいただきたいと思っております。

【委員】

かなりいろいろ工夫をされて、また、コロナ禍で結構制限があったものから大分戻って、コロナ禍前に行っていたことも含めてやっていきたいというところで、さまざまな事業をされているのが確認できてよかったと思う一方で、先ほどからのお話があるように、すすくすく泉さんがどうしたらいいのかで、すすくすく泉がどう運営していくかというよりも、すすくすく泉が、もう少しこういったことが欲しい、こういうことが知りたいとかこういう人を派遣してほしいということがあったときに、市のほうの支援がどうなっていくのか、いるのかというところが1点、気になりました。そこはすすくすく泉のことというよりは市のことなので、そのあたりを市のほうでも教えていただけたらと思います。

【委員長】

じゃ、今のことについて市のほうから。

【事務局】

まず、連携の部分です。確かに、子育て相談機関としては0123と桜堤児童館とほかの施設で分かれていますので、今年度、0123の施設を中心に、桜堤、はらっぱ、吉祥寺と、エリアで分かれて相談ができないか、0123の職員から各エリアのひろばさんにお話をしています。利用者支援事業をしている3施設から広がりがないかを今、検討しているところです。来年度できればと考えております。

【委員】

相談は、相談すると決めたものが来るわけじゃなくて、こんなことで話していいんだというのが大事だと思っています。そういう意味では、ここはしないところみたいに思われちゃっているんじゃないか。看板がかかっていないというかね。でも、私はどこにでもあったほうが良いような気がするので、その差別化がよくわからないし、その3つがまたほかのひろばの世話をする。じゃ、コミセンひろばはどうするんですかとなっていくけど。それぞれに力をつけているけど、そこはそこでちゃんと尊重してあげないといけないんじゃないかなというのがちょっと気になって、巡回相談じゃないかと私は思っています。

リアルタイムで私たちも拠点をやっていますが、相当いろんな型が勃発している。そこを聞き込んでいてもつないで終わりというところで、これだけの状況の親子は大丈夫なんだろうかというのが気になっています。「誰でも通園」に行き始めたというところでももちろんそうですが、その場所にもなっているので、ちゃんと印籠を持たせてあげたほうが良いような気がして、いつも謎だなと思っている点です。そこに違いがどうあるのかがわからない。拠点事業はみんながやったほうが良いのではないのかというのは気になっています。何を心配されているのか。何をいずみの会がすればそこが実現できるのか、

本人たちもわかっていないのではないかと。要対協は何で入れないんだろうと多分思っていると思うのです。それは国からの通達もあって、拠点事業を要対協に入れてくださいというのも入っていますので、そういうところからでもできることなのかなと思っています。

それ以外は実に頑張っている。施設長も代がわりして安定してやっていらっしゃる様子が見えて、安心しました。

【委員】

私も相談のところがちょっと気になっていました。でも、先生たちがいろいろ工夫して、子どもたちというよりも保護者のほうに力を入れているのがとてもよくわかったので、このまま応援していきたいと思います。

【委員】

全体的には大きな問題はないと思いますが、先ほど質問したように、資金収支、計算書の書き方をやや誤解しているのかなと思いますので、そこは市のほうからちょっと修正していただいたほうがいいのかと思うのです。会計の事務委託費は170万ぐらい払っていますが、ちょっと高い感じもしますし、NPO会計をあまり理解されていないかもしれませんので、よろしく。基本的には資金収支なので、お金の動きがわかるような形でつくっていただく。市の決算と同じですよ。そういう形で指導していただいたほうがいいのかと思いました。

【委員長】

会計のところはもう一度市のほうで確認します。恐らく法人会計だと退職給与引当金とかをしっかりと支出で見てという会計をしているところもありますので、NPOの会計がどのようになっているかも含めて、今、鶴川先生からいただいたご意見を、法人の中でどのようにできるのかも含めてアドバイスとか協議をしていきたいと思います。全体的な流れはよろしいかと思えますけれども、その仕組みと表記の仕方等についてはNPO法人のほうと話をしていきたいと思っております。

それでは、懇談会としての意見を取りまとめていきたいと思えます。

皆様の意見を総合的に勘案いたしますと、令和7年度の事業実績につきましては、おおむね予定どおりできたということで、計画どおり実施できた。令和8年度の計画については妥当な事業計画が立てられているということで皆様のご意見をまとめます。そのような形でよろしいでしょうか。——はい。

それでは、こちらの懇談会としての最終的な意見は、令和7年度においては事業計画に基づいた事業を実施しており、令和8年度については妥当な事業計画が立てられているということで、この後開かれる採択・評価庁内委員会に上げたいと思います。最終的にはこの委員会で事業の決定がされますので、そのような形で処理をしていきたいと思っております。よろしくお願ひします。

続いて、次回の懇談会の開催時期についてでございます。例年、この時期にやらせていただいておりますので、今回は令和9年の3月ごろ。その時点の実績と計画についてご意見をいただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

3 その他

【委員長】

それでは、次第の「その他」に移らせていただきます。事務局からよろしくお願いいたします。

【事務局】

事務局から連絡事項がございます。本日の議事要録につきましては、作成次第、委員の皆様にもメールでお送りいたします。内容をご確認いただきまして、ご自身の発言など何か修正がございましたら、事務局までメールで返答いただければと思います。修正を反映した後に市のホームページにて公表いたします。よろしくお願いいたします。

また、会議の謝礼については、承諾書に記載の口座にお振り込みいたします。

最後に、この懇談会に関しまして何かございましたら、子ども子育て支援課にお寄せいただければと思います。

以上です。

【委員長】

最後に、委員から何かご発言はありますか。よろしいでしょうか。

4 閉会

【委員長】 それでは、以上をもちまして、令和7年度すくすく泉事業有識者懇談会を終了したいと思います。お忙しい中、ご出席いただきまして、ありがとうございました。

以上